

土佐町小中学校だより

家庭数 NO. 7 平成30年9月14日

起震車体験

9月6日(木)に、小学校4年生と中学校1年生が起震車体験をしました。当日の早朝に北海道で震度7の地震が発生したこともあり、真剣に取り組んでいました。



○最初に、係の人から説明を受けました。



校長先生も体験



現在 震度3



高知県に2台あります。

上田 心夢 (小4)

地しんのゆれを体験して、しんど7の時が一番こわかったです。本当に地しんがきたときは、頭を守ってほうそうをよく聞いてすぐにひなんしたいです。

式地太功人 (小4)

今までのくんれんのおかげで、きしん車たいけんのしんど7強でもれいせいにたいおうができ、今までのひなんくんれんが役に立ったなあと思いました。

仙田空太郎 (中1)

震度7が実際に来たらと、思うとゾッとしました。ぼくは、横ゆれより縦ゆれの方がこわかったです。家でも周りにガラスやおれる物が多いので、その所をしっかりと話し合い対策していこうと思います。

杉本 歩路 (中1)

震度7の揺れが一番強かったと思いました。一番強い時は、立つこともできないくらい強い揺れだったので、あんな地震がもうすぐ来るかもしれないので、安全対策などもしっかりしたいと思いました。

今回の地震でも、家屋の損壊までは至らなくても、激しい揺れで、家具の転倒などが相次ぎました。激しく揺れる家屋で身を守るためには、思い冷蔵庫や食器棚が危険なのはもちろん、本棚などのたおれやすい家具も配置を見直して、壁に固定しましょう。【裏面参照】

誰にでもすぐできる家具転倒防止対策

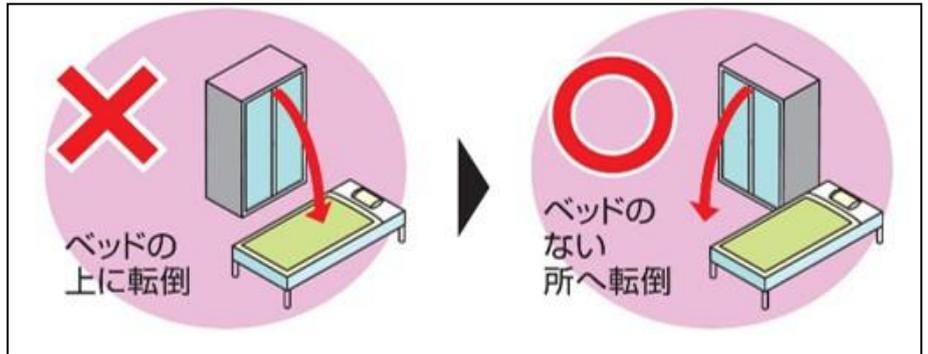
阪神・淡路大震災時に、建物の中でけがをした人の約半数(46%)は家具の転倒、落下が原因だったという調査結果があります。これにガラスの飛散によってけがを負った人(29%)を加えると、実に4分の3の人たちが家具やガラスでけがをしたことになります。つまり、家具をしっかりと留めて、ガラスの飛散防止対策を施せば、震災時に多くの人はけがから身を守ることができます。

レイアウトを工夫しよう

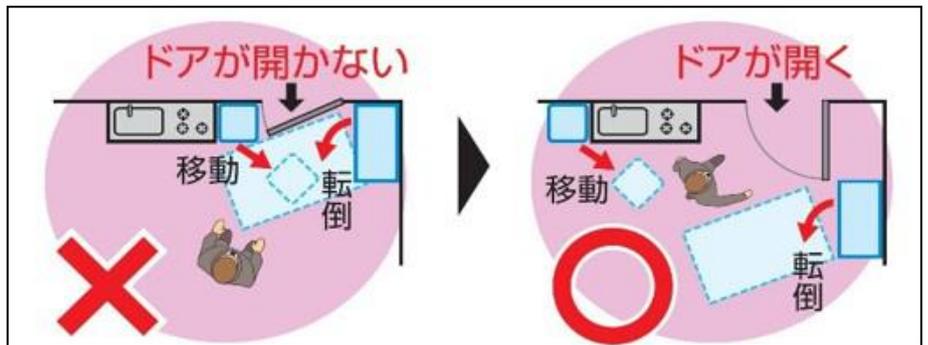
○できるだけ生活空間の家具類を減らしたら、続いて家具類のレイアウトを見直しましょう。

○「寝る場所」や「座る場所」になるべく家具を置かないようにしましょう。

○置く場合は、背の低い家具にするか、家具の置き方を工夫しましょう。



○避難通路や、出入り口付近には、転倒、移動しやすい家具類を置かないようにしましょう。



家具類それぞれに固定などの対策をしよう

【家具類の転倒・落下防止対策の例】

- ベルト式冷蔵庫は壁にベルトで固定する。
- 粘着マットやベルトなどで電子レンジを固定するとともに、台も壁に固定する。
- ストラップ式
- つっぱり棒(ボール)
- L型金具 壁に強度が足りない場合は、あて板をつけネジが抜けないようにする。
- 扉開放防止器具
- 連結金具 上下に分かれている家具は連結する。
- ガラス飛散防止フィルム
- ストッパー式 つっぱり棒を使用するとき併用する。

※家具転倒防止器具は、ホームセンターや量販店などで販売しています。
※壁にキズをつけずに、取り付けられる器具もあります。